

要旨

本研究は、現代日本における剣道人口の減少問題を主題とし、その実態と要因を明らかにするとともに、剣道の未来に向けた課題を探求するものである。著者自身が幼少期から剣道を続けてきた経験を踏まえ、剣道人口の減少を実感し、その背景を調査した

第1章では、中学・高校の剣道競技人口の推移を分析し、少子高齢化や部活動環境の変化が減少の一因であることを明らかにした。特に、指導者不足や学校教育の負担増が、剣道の継続に影響を及ぼしていると考えられている。

第2章では、剣道の歴史と現代におけるイメージを比較し、さらに海外における剣道の普及状況を分析した。日本国内では競技人口が減少する一方、海外では剣道が文化的価値を持つ武道として支持され、競技人口が増加している現状を示した。

第3章では、アンケート調査を通じて、現代の若者が剣道に感じる魅力を探った。その結果、剣道を続ける理由として「技術向上の達成感」や「精神的成長」が挙げられた一方で、練習の厳しさや費用の負担が継続の障壁となっていることが判明した。

第4章では、剣道の未来を展望し、初心者でも楽しめる環境の整備や柔軟な指導方法の導入が必要であると提言した。また、剣道の精神性や礼儀の重要性を伝えるための新たなアプローチの必要性も指摘した。

本研究は、剣道の競技人口減少の実態とその要因を明らかにし、剣道文化の存続と発展に向けた課題を提起するものである。剣道が持つ伝統的価値と現代社会のニーズを調和させる取り組みが、今後求められる。